



12月の園だより

令和6年12月2日
目黒区立田道保育園長

春先に田植えをした稲が実をつけ稲穂となり、収穫して干していた稲を先日5歳児クラスの子どもたちが脱穀しました。稲穂が垂れているのを見て、「お米がたくさんできたね」と友達同士、互いに声を掛け合っています。ペットボトルの蓋に穴を開けたところに穂先を入れて引っ張って穂と実を分ける作業を手分けして行いました。見に来ていた4歳児クラスも参加して、どの子も集中してやっていました。取り分けた米をタライに入れて子どもたちに見せながら、みんなが給食で食べるおにぎりのお米の数は何粒ぐらいだと思う」と質問すると「200粒ぐらい」「500粒かな」と口々に答えています。おにぎりになる量になるように少しずつ秤に乗せながら子どもたちに見せました。「正解は1750粒ぐらい必要だよ」と伝えると「えっそんなに必要なの」と驚いていました。「今度はもみすりだね。おにぎりにして食べるにはこれからが大変な作業だね」と声をかけると「がんばらないと」とはりきっていました。もみすりをして米の一粒の大切さやおにぎりになるまでの行程を知らせていき、大変な作業も友達と一緒に協力して、美味しいおにぎりが食べられるといいです。

今月は幼児クラスがにこにこ子ども会を行います。活動の中で表現遊びを取り入れ楽しむことができました。子どもたちが取り組む過程の中で、自己発揮しながら一つの作品に向かい、友達同士で協力し合って作り上げました。保護者の方にも、楽しんで表現する子どもの姿や心の成長が見える、にこにこ子ども会になってほしいと思っています。



今月の予定

にこにこ子ども会

(3、4、5歳児クラス)

乳児お楽しみ会

(0、1、2歳児クラス)

5歳児クラス懇談会

身体計測、避難訓練

年末年始は

12月29日～1月3日がお休みです



『 園内見学 』

～用務エピソード～

掃除機をかけていると乳児クラスの子どもたちは、興味津々で見たり、怖がりながら動かずじっと見たいと様々ですが、幼児クラスの子どもたちは決まって「何してるの?」「何で?」と聞いてきます。



「吸い込まれるよ」と答えると「吸い込まれるー」と楽しそうに逃げて行き、こんなやりとりも楽しいです。年長クラスになると、姿が見えている時の用務の仕事はわかるけど、姿が見えない時はどこで何をしているかが不思議らしく質問をされました。作業室があることを伝えると「どこに?」と目を輝かせていたので今度見に来てくださいと誘いました。見学に来てくれるそうなので楽しみに待っています。

～戸外は魅力がいっぱい～



風が冷たくなってきましたが、子どもたちは園庭や散歩先で元気に遊んでいます。
0歳、1歳、2歳児クラスの戸外での様子をご紹介します。

『 おさんぽ だいすき 』

めだか組（0歳児クラス）

めだか組は、田道広場やクリーン公園に散歩に行っています。広場につくと、歩行が安定している子たちはすぐに歩き始め、広々とした所で歩くのが嬉しいようで足取りも軽やかです。保育士がいるところまで歩いてきたり、保育士に追いかけられることを楽しんで「まてまて」と言うので小走りしていき、離れたところで立ち止まり後ろを振り返って目が合うとニコッと笑っています。四つ這いやすり這いをしている子たちは、落ち葉を見つけて這っていき、ギュッと握ったりちぎったりして落ち葉がパラパラと手から落ちていくのを見えています。こうして子どもたち一人ひとりが思い思いに探索を楽しんでいます。これからも自然に触れながら子どもたちの感じたことや発見に共感して散歩を楽しんでいきたいと思っています。



『 歩いてさんぽ 』

あひる組（1歳児クラス）

春は散歩車に乗って出かけていた子どもたちも、秋には自分で帽子を被り、靴を履いたり上着を着たりして、保育士や友達と一緒に手を繋いで散歩先まで歩いて出かけています。自分の足で歩くことを楽しみ、周囲を見回して大きな車や草木や花を眺めたり、ヘリコプターが飛んでいると指をさして「ブーン、ヘリコプター」「はっぱ」「あ」と目を輝かせて言葉や仕草で知らせてくれています。散歩先では、保育士や友達と一緒に走ることを楽しんでいます。「〇〇ちゃん、どこかな？」と保育士が言うと「あそこにいた」と言ってその友達のところまで走って行ったり「〇〇先生、まてまて」と保育士を追いかけていたりしています。それからどんぐりを見つけると、大事そうに握りしめて保育士や友達に見せにきてくれます。子どもたちと一緒に季節を感じ、自分の力で歩く経験を積んでいきながら、寒さに負けず体を動かして遊んでいきたいと思っています。



『 3びきのこぶた 』

らっこ組（2歳児クラス）

絵本の世界を繰り返し楽しんでいるらっこ組です。公園に着くと「3びきのこぶたごっこをやろう」と声があがって、保育士も一緒に入りオオカミ役と子ブタ役に分かれて遊んでいます。木の陰や林の中を「ここをおうちにしよう」と藁やレンガの家に見立てている子どもたち。そこへオオカミがやってきて「あけておくれ」「やだよ」「こんな家、吹き飛ばしてやる」と絵本のやりとりをしながら逃げたり、追いかけてたりすることを楽しんでいます。遊んでいく中で「オオカミが入らないようにカギをつけよう」「オオカミと仲直りしよう」と絵本にはないイメージが膨らんでいる姿があります。そんな子どもたちのイメージを共有したり、広げたりしながら楽しめるようにしていきます。

